

令和7年度デジタル学習基盤を前提とした授業改善研修（第4回）

デジタル学習基盤を前提とした1人1台端末環境下における授業改善に必要な知識等を身に付けることを目的として、標記研修を実施しました。

- 1 対象 県立学校・市立高等学校・市立特別支援学校の希望者
- 2 受講者 62名
- 3 日時 令和7年11月13日（木）14:00～15:30
- 4 研修形態 オンライン
- 5 テーマ 課題解決型学習におけるICT活用
- 6 講師 京都教育大学教職キャリア高度化センター
講師 大久保紀一朗
岡山県教育庁高校教育課教育情報化推進室
副参事 伊藤稔文

7 研修内容

- (1) 授業のDX
- (2) 学習者主体の授業をデザインする
- (3) 「深い学び」を促す教師の役割変容とICT活用
- (4) 「自己調整学習」を支えるデジタル学習基盤の構築
- (5) 実践から見えてきた課題と今後の展望

情報活用能力が必要になる学習者主体の授業のスタートライン

- 学習の進め方（手引き）の共有
 - 進め方がクラウドで共有されている（学習環境）
 - 子どもが手引きを参考にして進めている（指導性）
- クラウドでの他者参照
 - 学習に関係するデータがクラウド上で共有されている（学習環境）
 - 自分にとって必要なタイミングで情報を参照できている（指導性）
- めあて・振り返りの共有・蓄積
 - めあて・振り返りがクラウド上で共有・蓄積されている（学習環境）
 - 学び方にもフォーカスし、子どもが自己調整、メタ認知を促進するめあて・振り返りが書けている（指導性）

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved

個別最適な学びにおいて子どもは何を調整するのか？

- 学ぶ進度
- 学ぶ深度
- 学ぶ方法
- 学ぶ相手
- 学ぶ場所

学習環境 → 足場かけ → 学ぶ力

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved